

ベルギーの政変に関する年表

武 居 一 正*

この年表は、合計 589 日間の長期にわたったベルギーの政変（2010 年 4 月 26 日～2011 年 12 月 6 日）を、その背景も含めて、理解するために作成したものである。拙稿「ベルギーの政変について－その憲法問題点を中心に－」福岡大学『法学論叢』56 巻 4 号、2012 年と合わせ参照されたい。

I. 前提的事実

→フラマン人の願いである国家改革について 3 年にわたり何も進展がなかった。

2007 年

6 月

6 /10 日曜 上・下両院総選挙。共同体問題の解決を訴える CD&V の勝利。フランドルで第 1 党に返り咲く。80 万票の個人票を得たイブ・ルテルム（Yves Leterme）が組閣者に。

* 福岡大学法学部教授

12月

12/21 金曜 提案された国家改革へのフランス語系政党の抵抗が大きく、紆余曲折の末（ルテルムの組閣失敗）、フェルホフスタット (Guy Verhofstadt) 第Ⅲ次内閣成立 (CD&V, cdH, MR, Open VLD, PS)。ルテルムによる制度改革交渉がまとまるまでの暫定政権。

2008年

3月

3 /20 木曜 フェルホフスタット辞任。ルテルム第Ⅰ次内閣成立 (CD&V, cdH, MR, Open VLD, PS)。

7月

7 /14 月曜 国家改革についてより実質的な新提案を提出することが出来なかったため、ルテルムは国王に辞表を提出した。国王は保留し、3名の調停者 (médiateur) を任命した。

9月

9 /19 金曜 調停者の最終報告書提出。「共同体間対話」への途を開く。

9 /21 月曜 CD&V と N-VA のカルテル崩壊。N-VA が制度に関する対話が行なわれる条件を拒否したため。政府は、下院のオランダ語系議員グループ内での多数を失うことに。

12月

12/19 金曜 ルテルム首相フォルティス事件で辞職¹。

12/22 月曜 国王、元首相マルテンス (Wilfried Martens) を探索者 (explorateur) に任命。

12/28 日曜 国王、ヘルマン・ヴァン・ロンプイ (Herman Van Rompuy) を組閣者 (formateur) に任命。

12/30 火曜 ヴァン・ロンプイ内閣成立 (CD&V, cdH, MR, Open VLD, PS)。

2009 年

2 月

2 / 16 月曜 フラマン政府首相 (ministre-président) クリス・ペータース (Kris Peeters) が、制度に関する共同体間対話を止める。フランス語系政党が合意に向けて本当に関わろうとしていないという理由で。

6 月

6 / 7 日曜 **地域圏、共同体および欧州選挙**。その特徴として、フラマン側では、極右の Vlaams Belang が新たな後退をし、N-VA が票を伸ばし (得票率 15%)、Open VLD は 15% 以下に減らした。フラマン政府は、CD&V, .sp.a, N-VA の連立政権となった。ワロニー側では、第三党の Écolo が大いに得票を伸ばし、最盛期の 1999 年に迫る勢いであった。PS は 10% 近く MR に差を付け、第一党に復帰した。ワロン政府とフランス共同体政府は PS, Écolo, cdH の三党が連立政権を作った。

11 月

11/19 木曜 ヴァン・ロンプイ首相が欧州理事会議長 (いわゆる欧州大統領) に指名された。

11/20 金曜 国王は、元首相マルテンスに対し早急かつ有効な移行の準備、つまり制度問題交渉手続きの決定、をするよう命じた。

11/24 火曜 国王は、元首相ジャン・リュック・ドゥハーヌ (Jean-Luc Dehaene) に対し制度問題、特に BHV 選挙区、に関して基本的提案をするよう命じた。

11/25 水曜 ヴァン・ロンプイ首相辞職。ルテルム第Ⅱ次内閣成立 (CD&V, cdH, MR, Open VLD, PS)。

12/ 1 火曜 ヴァン・ロンプイ欧州理事会議長就任。

2010 年

3 月

3 / 9 火曜 ドゥハース、コミュニケ発表。復活祭休暇の終わり（4/18）までに合意に至ることを目指すと。

4月

4 /12 月曜からの第3週、Open VLD による最後通牒の噂。

4 /20 火曜 ドゥハースはその任務が成果なく終わったことを公表した。

4 /22 木曜 Open VLD 党首ドゥ・クロウ（Alexander De Croo）は、BHV 選挙区の問題に関する交渉の遅さを理由に政権離脱。ルテルム首相辞表提出。国王これを保留。

4 /24 土曜 国王は、副首相ディディエ・レンデルス（Didier Reynders, MR）に対し交渉再開の可能性について調査するよう命じた。

4 /25 日曜 レンデルスその任務について報告。

II. 政 変

→空前の長さの政変になり、その過程で重大な憲法問題が生じた。

4 /26 月曜 レンデルスの任務解かれる。国王、ルテルム首相辞職を承認し、事務管理をするよう指示。

4 /29 木曜 下院フランス語系政党が BHV 分割 2 法案が共同体間の関係を重大に損なうものであるとの宣言案を提出（警鐘手続き開始）。

5月

5 / 7 金曜 **憲法改正宣言**。上・下両院の解散および選挙人団の召集。

6月

6 /13 日曜 **憲法改正宣言に伴う解散による上・下両院総選挙**

圧倒的（他政党と較べて）かつ（右翼と左翼で政策が）正反対の二つの勝利者が生まれた。北部フラマン語地域で新フランドル同盟 N-VA、南部フランス語地域で社会党 PS。下院で、N-VA27 議席、PS26 議席獲得。

史上初めて、分離独立主義政党 N-VA が第 1 党となった。この結果が、

話をややこしくした原因である。

→選挙後、2党の政策の相違にも拘わらず、PSのエリオ・デイ・ルポ（Elio Di Rupo）が首相にとの合意が成立した。このことがポストを要求しない政党との交渉を困難化した。

6 /14 月曜 総選挙後の慣例として、ルテルム政府辞職を申し出。国王はこれを受理し、事務管理を行なうよう指示。

6 /17 木曜 N-VA 党首バルト・ドゥ・ヴェーバー（Bart De Wever）が、国王により**組閣情報提供者 informateur** に任命された。彼は一連の協議（consultation）を行った。

6 /24 木曜 ドゥ・ヴェーバー第1回報告。

7月

7 / 2 金曜 ドゥ・ヴェーバー第2回報告。

7 / 8 木曜 ドゥ・ヴェーバー任務を解かれる。短い宣言において、3つの領域、つまり「公財政の健全化」、「社会的整合性 cohésion sociale」、「国家改革」、で政府樹立を考慮している政党間で意見の一致があると説明した。彼は午後会った国王にこの一致を深めるためにイニシアティブを発揮するよう勧めた。

ただ、彼はどの党による連立かについては詳しい提案をしなかった。議論のための良いベースとなるものが（連立）交渉開始前に見出されなくてはならない。直ぐに交渉を始めると、失敗すれば《想像しがたい》結果を生じると付け加えた。

→楽天家は、10月12日の国会召集までに連立政権が成立するだろうとした。というのは、やはり2007年とは同じ事をしないだろうと思われたからである。

→しかし、N-VA は、この時既に連立交渉の先行きを左右する重要な条件を付けていた。すなわち、議論のための良いベースが「交渉の前」に必要と。

つまり、制度改革に関する合意が何よりも先に必要で、これがなければ、連立交渉をするつもりがないとの立場をはっきりと表明していた。

その夜、PS 党首エリオ・ディ・ルポが、**組閣前交渉者 préformateur** に任命された。

「前」と名付けられたのには、正式なやり方の前に中間段階がある方が良くと判断されたからである。

ディ・ルポも一連の協議を行った。議論の一つは環境政党の連立への参加であり、これにより政府が3分の2の多数を擁するべきだということであった。Ecolo は Groen! と一緒になければ連立に加わらないとし、N-VA は Groen! を加えるつもりがなかった。

7 /13 火曜 上院集会。共同体上院議員宣誓。

7 /20 火曜 上院集会。互選による上院議員宣誓。

7 /27 火曜 国家改革を支持すると見られる 7 党、つまり PS, sp.a, N-VA, CD&V, cdH, Ecolo, Groen! の最初の会合が開かれた。

ディ・ルポは、区分けによるアプローチを採用した。7 党で先ず制度問題（3分の2の特別多数が必要）を議論し、後から5党（環境政党を除いた）で連立交渉する（これは行われることがなかった）、である。

7 /30 金曜 ディ・ルポによる国王への最初の報告。

現在議論されている1、580億ユーロで、地域圏と共同体はかつてなかった行動の幅を持つことになるかと報告した。

任務を延長されたディ・ルポは、調停し難いものを調停しようとしていると強調した。というのは、オランダ語系政党は更に進んだ連邦制（confédéralisme）を望んでおり、N-VA はフランドルの独立を目指しているのに反して、フランス語系政党は連邦化されたベルギーに愛着を持っているからである。選挙の結果からすれば、「我々はベルギーの重心が連邦から地域圏と共同体の方へ動いたことを知っている。」とも説明した。

7 /31 土曜 交渉は家族のための休暇で休み。

8月

8 /11 水曜 エリオ・ディ・ルポ、7党に対し現状について口頭で報告。広報担当によれば、この説明で、組閣前交渉者は各党の要求と様々の可能性について話したとの由。このようにして、交渉の“領域 (périmètre) ”、すなわち、地域圏と共同体へ移転されうる権限、が決められた。議論の一つは家族手当 (allocations familiales) に関するものであった。ほとんどの政党が「地域圏」への権限移転を望んでいるのに、CD&V の支持を得た N-VA は「共同体」への移転を主張して、要するにブリュッセル地域圏の否定を表明した。

8 /16 月曜 フラマン側が「財政法の改正」の要求を突如持ち出してきた。

総選挙直後から、ドゥ・ヴェーバーとディ・ルポがそれには触れないとしてきたのにも拘わらず。組閣前交渉者は、問題の複雑化を感じ取って、軟着陸させなければならないと警告した。

→いくつかの権限を連邦から地域および共同体へ移す合意に至った8月中旬、ディ・ルポが組閣者 formateur に成り、新内閣を樹立できると考えた正にその時に、フラマン側は交渉のテーブルにあるものが少ないと言い始めた。ドゥ・ヴェーバーが財政法の改正を持ち出したのである。フラマン側は、地域圏と共同体は、その政策決定に際し財政的に均衡がとれていなければならないと考えていたことが背景に。

→ディ・ルポは担がれた (cheated) と感じた。ドゥ・ヴェーバーからこの問題に触れないとの保証を得ていたと思っていたが、彼によれば、それは地域圏が他の方法で財政均衡がとれるようにされた場合のことで、今回はその場合には当たらないと。

8 /18 水曜 ディ・ルポ報告。国王、組閣前交渉者ディ・ルポに任務続行を求め、次の領域で議論を深めるよう指示した。すなわち、各々の連邦構成自

治体が繁栄できるための新しい権限についての自治体の責任と責任化、連邦が担い続ける権限と義務についての連邦の延長における財政。

8 /24 火曜 財政法見直しのための12の原則に7党合意。

2日前にN-VAが新たな問題、人頭税IPPの地域圏化、を持ち出し、2日後にN-VAが唯一合意に至ったと思われたブリュッセル地域圏の段階的財政再建(2014年に5億ユーロまで)を再び問題視したにも拘わらず。

8 /26 木曜 ほとんど全ての点、特にBHVとブリュッセル、で交渉行き詰まり(blocage)。

8 /28 土曜 デイ・ルポは、N-VAとCD&Vからのサインを待った。

8 /29 日曜 デイ・ルポ報告。国王、組閣前交渉者の辞任を認めず、特に以下の事項につきその任務を継続するよう求めた。すなわち、BHV、ブリュッセルの財政再建、合意された12の原則に基づく新財政法準備の方法、より直接的に関わる事項を話し合うために社会的パートナーを結集しつつ交渉者の間の信頼を取り戻すためにこれら3つのテーマの関連。デイ・ルポ任務続行を受諾。

8 /30 月曜 デイ・ルポ、会見で《合意か混乱か》と、N-VAとCD&Vに理性的な判断を求める。

8 /31 火曜 ドウ・ヴェーバーは、自由党が交渉の席に着く希望を隠さなかった。

自由党との会談は有名レストランで行われた。

→財政法改正についての漠然とした合意は形成されたものの、フランス語系政党とオランダ語系政党の間に不信の念が生じ、増大した。N-VAは、交渉の席にある唯一の右翼政党であり、少し孤立感を持っていた。そこで、中道右派の自由党を交渉に引き込もうとの考えが芽生えたのである。

9月

9 / 3 金曜 交渉失敗

最終提案受け入れられず、ディ・ルポ辞任を申し出、国王は保留に。

→ブリュッセル問題に取り組みないで、どうにもならなくなった。

9 / 4 土曜 国王、ディ・ルポの辞任を承認した上で、上・下両院議長 **Danny Pitters (N-VA, Sénat)** と **André Flahaut (PS, Chambre)** を **調停者 médiateur** に任命。政府樹立の交渉を再開させるため。

二人はドゥ・ヴェーバーとディ・ルポを会わせるのに苦労した。

9 / 17 金曜 調停に関する中間報告。

9 / 20 月曜 La Libre Belgique 紙は、「高度の緊張に包まれた苦しい一日」とのタイトルを付けた。

しかし、決定的な決裂は避けられた。「高いレベルでの」財政法に関する作業グループが設けられ、まだ何とかPSとN-VAの共同議長の下で機能していた。

10 月

10 / 4 月曜 「振り出しへ」と La Libre Belgique 紙。

ドゥ・ヴェーバーが7党での交渉を止めると発言。N-VA が「子供じみたゲーム」は止め、ゼロからの再出発を求めた。

10 / 5 火曜 二人の調停者辞任。国王ルテルム首相を引見し、国会と緊密に連携して、長い事務管理の期間、市民の経済的・社会的安定を図るために最善を尽くすよう命じた。

10 / 8 金曜 国王、ドゥ・ヴェーバー、**論点整理者 clarificateur** に任命。以下についての観点を近づけるよう指示した。すなわち、a) BHV、b) ブリュッセルの財政再建、c) 連邦構成自治体への権限の移転、d) 財政法改革とその結果を明らかにすることを含む。

10 日もかけないと言明。任務は以上の事項に関する7党の考えを明らかにすること。

10 / 12 火曜 国会召集。

10/18 月曜 ドゥ・ヴェーバー国王に報告。覚書 note 提出。

フランス語系政党は、誰も彼に作成を頼みもしなかった覚書を批判した。

→ドゥ・ヴェーバーは、要するに N-VA の BHV 分割と財政法の改正についての考えを述べただけ。フランス語系政党から、「バランスを欠き」「余りにフラマンに有利」と酷評され、即座に拒絶された。

ドゥ・ヴェーバー、恥をかかせられた (humilié) と述べる。

10/21 木曜 国王、ヨハン・ヴァンドゥ・ラノット (Johan Vande Lanotte) を仲裁者 conciliateur に任命。その第 1 の任務は交渉者に信頼感をもう一度持たせること。次いで、論点整理者、調停者、組閣前交渉者の作業を基に、財政法に関して出された異なる仮説を試すこと、これは連邦レベルおよび連邦構成自治体レベルでの財政的結果を予測するため、この予測が合意された 12 の基準と調和が取れるかどうか吟味すること、この作業を国立銀行および統計局と協力して行なうこと。

「私のキャリアの中で最も困難な仕事だ」と彼は述べた。客観的に交渉を進めるために可能な限り秘密裏に行なうことに。この任命に N-VA は驚いた。

11 月

11/ 4 木曜 ヴァンドゥ・ラノット第 1 回報告。

IPP の二重レート (同じ部分 tranche への連邦と地域圏との異なる税率の決定) に触れていた。フランス語系政党は説明を求めた。反応は全く冷たいものではなかった。12 月 15 日に財政的自立に関する新たな覚書が予定された。

→財政法改正は各方面に多大の影響をもたらすので、客観的な基準を用いて検討される必要があった。そこで、連邦統計局と国立銀行の専門家による検討を採用した。ヴァンドゥ・ラノットは妥協案を模索して、フラマン語系政党とフランス語系政党の間を何度も行き来した。

11/16 火曜 第 2 回報告。

11/29 月曜 第3回報告。

12月

12/9 木曜 作業一時停止。

仲裁者の母親の病状悪化により。その後1月11日に亡くなった。

12/13 月曜 独 Spiegel 紙に、ドゥ・ヴェーバーは「ベルギーは病気で、北から南へのお金の流れは、見込みのない者に薬を与え続けるのに似ている」と述べた。

12/16 木曜 第4回報告。

12/25 土曜 **ベルギー史上最長の政変記録更新**される。総選挙後 195 日目。次は欧州、そして世界記録へ。

2011年

1月

1 / 5 水曜 ヴァンドゥ・ラノット 60 頁の総括覚書提出。

この提案に基づき交渉を継続するかどうか2日以内に回答を求めたが、大改革を求める N-VA と CD&V の回答は否だった。

1 / 6 木曜 第5回報告。ヴァンドゥ・ラノット、国王に辞任を申し出、国王これを保留。

この間にディ・ルポは、自由党に対し仕方なく半ば門を開けたかのように思われた。

→PSの新年会で、ディ・ルポは国民統一政府（gouvernement union national）の樹立またはこれが上手く行かないとき、新たな政党に門戸を開くことを提案。これを受けて、双方の自由党は政府交渉に加わる希望を表明した。

国王は、事務管理をしているルテルム首相に2011年予算を作成するよう命じ、その際予算の収支バランスについてEUの基準よりも上回るように指示した。

1 /11 火曜 国王の要請で、現状の袋小路から抜け出すためにヴァンドゥ・ラノットが、デイ・ルポとドゥ・ヴェーバーを協力者として、取り組み再開。

7党の新たな会合開始、しかし、常に7党揃ってではなく、言語別に。CD&V と N-VA の新たな戦術、「少ないがもっと less is more」、つまり、雇用の問題や医療保障の問題などは地域圏化を少なくするが、より深いものを追求する、を始めた。

1 /23 日曜 正式な政府なしの状態を非難する若者（ULB の学生）の主導によるブリュッセルでのデモ、約3万人。

1 /26 水曜 第6回報告。ヴァンドゥ・ラノット再び辞任。今回は国王も受理。

今後協議には1年近く排除されていた自由党も加えられることに。

1 /28 金曜 シャルル・ミッシェル（Charles Michel, 1975 年12月生）がMR党首に選ばれる。レンデルスの後継。

2月

2 / 2 水曜 国王、自由党レンデルス（Didier Reynders）を情報提供者 **informatateur** に任命。作業期間2週間。

→この間に国王もまた多くの他の国民のように「7党での交渉」の考えは失敗したと判断し、レンデルスに以下の事項に関して制度合意に至る可能性があるかどうか調べるよう命じた。3つの任務。a) BHV とブリュッセルの財政再建、b) 連邦構成自治体への権限移転とそれらの財政および責任化、c) 連邦国継続における財政。

2 /16 水曜 レンデルス第1回報告。3月1日まで任務延長へ。

国王は、首相に対し、事務管理内閣が2011年予算を国会に提出するよう命じ、来る数年間の予算措置および構造改革に関する欧州の要求に近い将来に答えるために必要な規定を定めるよう命じた。

2 /17 木曜 正式な政府なし世界記録、イラクの事例、を破る。総選挙後

249日。

3月

3 / 1 火曜 レンデルス、国王に第2回報告。国王レンデルスの任を解く。

→レンデルスは、要するに、ブリュッセル問題についても、どの党と交渉するかについても、PSとN-VAを合意させるに至らなかった。ほとんど何もできなかった。

この時点までに明らかになった各政党の立場はおよそ以下のようであった。
すなわち、

PSは、9党での議論再開を望んでいる。

N-VAは、9党での新たな交渉を望んでいない。←9党になれば相対的にN-VAの重みが薄れてしまう。

PSは、自由党MRのディディエ・レンデルスが任務を続行することを望んでいない。

N-VAは、社会党sp.aのヨハン・ヴァンドゥ・ラノットが任務に復することを望んでいない。

PSは、ヴァンドゥ・ラノットの復帰を望んでいる。

N-VAは、バルト・ドゥ・ヴェーバーが新たな任務を付託されるのを望んでいる。

フランス語系政党は、もはやドゥ・ヴェーバーに任務が与えられるのを見たくない。

オランダ語系政党は、N-VA抜きで交渉することを望んでいない。

フランス語系政党は、いつかはN-VA抜きで済ませたい。

N-VAは、sp.aを排除したい。

PSは、sp.aが遠ざけられることを望んでいない。

N-VAは、もはやGroen!を欲していない。

Ecoloは、Groen!の残留を望んでいる。

CD&V は、何も望んでいない。

→複雑な「連立」方程式になった。

3 / 2 水曜 国王、ワウター・ベーク (Wouter Beke, CD&V) を交渉者 **négociateur** に任命。

7 人目の登場。国家改革と新政府樹立に関する合意の準備のための交渉。無期限で。

→選挙での敗北を理由に 8 ヶ月半も勝者 N-VA の後ろにあった CD&V が、ついに交渉の前面に出ることに。

昨年 8 月末以降失われた二大政党 N-VA と PS 間の信頼の回復が最優先されなくてはならない。これなくして国家改革は成し遂げられないから、ベークがドゥ・ヴェーバーとディ・ルポ両党首との「緊密な対話 *dialogue privilégié*」に取り組むとしたのは当然。

という次第で、3 党首間の話し合いが持たれることに。ベークの成功は、2 政党の対応に委ねられることに。

→この間にルテルム事務管理内閣は、2011 年度予算を上げ、EU の要求する財政均衡の水準を満たし、賃金についての労使間合意に関する法律を可決させる必要があった。

3 / 16 水曜 ベーク第 1 回報告。

3 / 18 金曜 事務管理内閣、2011 年予算について、赤字を、3. 6% 以内に抑えて、合意。

4 月

4 / 13 水曜 N-VA は、自党が参加しない事務管理内閣の活動を一度ならず批判した。

4 / 21 木曜 ベーク、ドゥ・ヴェーバー、ディ・ルポの 3 人による会談中止。ベークの祖母の死亡によるものと説明。

4 / 26 火曜 正式な政府なしで 1 年。

5月

5 /12 木曜 ベーケ最終報告。報告書は3章140頁、内容的には①BHVとBruxelles、②権限の移転、③財政法のモデル、④付録から成っていた。ベーケ国王に辞職を申出。国王はこれを保留し、9党党首の意見を聴取。曰く、3党で話ただけで、提出前に見せられてもいない上に、1ヶ月半の交渉による良い徴候も見られないとの異議あり。

5 /16 月曜 国王ベーケの辞職を受任し、**ディ・ルポを組閣者に任命。**

仏・蘭語系の新聞各紙は多くが、ディ・ルポの成功には懐疑的であった。

ディ・ルポは、先ず社会・経済問題と制度改革問題に関する各党間の了解点を見付けようとした。そして、各党が受け入れ可能な交渉の基礎として「覚書」を準備することに。

5 /19 木曜 下院 2011 年予算可決。

5 /24 火曜～31 火曜 各党党首との個別会談。主に予算について。

5 /28 土曜 ディ・ルポ社会党党首に再選。任期4年。

5 /29 日曜 ポール・マニエット (Paul Magnette, PS)、エネルギー大臣、は「如何なる道も避けてはならない。社会党は健康保険での経費削減に反対しない。」とVRTで述べた。

5 /30 月曜 ディ・ルポ、覚書提出後は交渉のリズムを早め、最終目標は公財政の均衡を図ることと述べた。

5 /31 火曜 ディ・ルポ、国王に中間報告。翌日声帯の手術を受ける予定で、1週間は声が出ないため。交渉に参加する9党党首との一連の会談終了。

6月

6 / 1 水曜 ディ・ルポの手術成功。

6 / 8 水曜 2回目の各党党首らとの個別会談開始。主に制度問題について。

6 / 9 木曜 財務相のヒー・ヴァンヘンゲル (Guy Vanhengel, Open VLD) は、EU委員会の勧告、すなわち、歳出削減と賃金物価スライド制の改

革、に政府が従うべきとの認識を示した。また、キャリアの長さに応じた「柔軟な年金受給年齢」を設けることにより 65 歳からの年金受給を見直すとしたオランダ語系社会党の上院議員フランク・ヴァンデブルッケ (Frank Vandebroucke) の提案を興味深いとした。

予算モニター委員会 (Comité de monitoring budgétaire) は、均衡に戻すのには 220 億ユーロの削減が必要とした。

6 /16 木曜 2 回目の個別会談終了。ディ・ルポは、雇用を創設し、経済活動を活性化し、同時に社会的公正も維持しながら、歳入を増やし、支出を少なくするにはどんな改革が必要かが、本当の問題だとした。

6 /17 金曜 ディ・ルポは、①地域圏と共同体のより大きな自治を伴う、国家の安定化のための深化された国家改革、② 2015 年に均衡予算に戻すために、およそ 200 億ユーロの財政赤字を徐々に削減する公財政の健全化、③年金などに関する経済・社会改革が大事と指摘。

ドイツ語共同体のカール・ハインツ・ランベルツ (Karl-Heinz Lambertz) は、ベルギーの将来は 4 つの地域圏から成るとすべきと発言。

6 /19 日曜 ヴァン・ロンパイ欧州理事会議長が、出来るだけ早く合意をと発言。

CD&V の元首相マルク・エイスケンス (Mark Eyskens) は、自党の N-VA への追従主義を批判。

6 月中旬 MR と FDF が、N-VA との関係の持ち方をめぐって対立。

6 /20 月曜 覚書完成まであと 10 日から 15 日との観測。

6 /21 火曜 国王への第 2 回目報告。

6 /22 水曜 フラマン政府首相ペーテルス、人口の差が大き過ぎるから、2 つの地域圏に戻るべきとした。

N-VA は、2012 年の地域 (コミューンと州) 議会選挙で、可能な限り多くのコミューンで独自候補擁立の構えを示す。

6 / 28 火曜 MR と N-VA は、経済社会問題では立場が似通っているとの報道。歳出削減、出来る限りの国民負担減少など。しかし、共同体問題では大きな相違。

7月

7 / 4 月曜 ディ・ルポ、「より効率的な連邦国とより自立した連邦構成自治体 entités fédérées」と題した 111 頁に亘る **覚書 note** を提出。

これによれば **5つの大改革**が、国民全体の将来のため、2015年までに25万の雇用創出、に必要である。

1. **大幅な国家改革**、連邦から地域圏および共同体への 173 億ユーロ分の権限委譲。
2. **地域圏の税務自治**、約 100 億ユーロ分。
3. **財政特別法の改正**、地域圏および共同体のより一層の自立、効率、責任化を計る。
4. **公財政の厳格な健全化**、2015年までに220億ユーロの赤字削減。健全な財政基盤を再び整え、EUの要求に応える。
5. **社会・経済改革**、人口の老齢化を含む将来の主要な課題に対処する。

7 / 5 火曜 ディ・ルポは、これを叩き台として交渉を進めるかどうか各党に木曜夜までに回答を求め、週末に必要な連絡を取り、考慮した後、連立の提案をするとした。

オランダ語系新聞各紙は、「決定的」、「思い切った」、「革新的」などと、フランス語系新聞各紙も、「詳細な」、「具体的数字を挙げた」、「バランスの取れた」などとの好意的評価。

7 / 7 木曜 N-VA 拒否。BHV 分割に過度の譲歩がある。新課税が多すぎる。失業保険受給の期間制限がない。25万の雇用創出不可能などとの理由。

CD&V 党首ベーケは、拒否戦略を批判して、「残念なのは、反対提案をしないことだ」とした。同党は、N-VA 抜きでの交渉はありえないとし、組

閣者が覚書を修正しなければ、交渉のための条件が満たされないとした（ウィともノンともはっきり答えていない）。その他の7党は交渉を受け入れ。Groenl は N-VA 抜きでの交渉を求め、cdH のミルケは、「ウィ」と応えた者だけで交渉を続けるべきとした。

7 / 8 金曜 憲法改正に必要な3分の2を確保できないためディ・ルポ辞職を申出。国王はこれを保留し、政治状況の重大さに鑑みて、各政治指導者に政治状態のもたらす結果を量り、解決の糸口を探すために数日の考慮をするようもめた。

7 / 9 土曜 国王による情報収集開始。

オランダ語系自由党および社会党も N-VA 抜きでの交渉をとの立場を明らかに。自由党党首ドゥ・クローは、「N-VA にはうんざりだ。この党はどんなものであれ妥協案に賛成することがない。彼らとは共に進むことができない。もうやり方を変える時だ。」と述べた。

ディ・ルポ達は、CD&V の切り離しを考え始めた。

7 / 10 日曜 コルトレイク（Kortrijk）での「黄金の拍車の戦い（1302年）」を記念したフランドルの祭日で、喝采を受けたのはドゥ・ヴェーバーで、この間フランドル政府首相のクリス・ペータースは市庁舎内で待つことを強いられた。CD&V 内で、N-VA に最も近い1人であるだけに、これを侮辱と感じた。ペータースの中で変化が生じた。

7 / 12 火曜 ディ・ルポ、ベークに覚書の好意的検討を求めるが、失敗。しかし、ワロニーだけでなくフランドルでも、CD&V を合理的な方向へ導こうとの動きあり。

7 / 14 木曜 ディ・ルポおよび7党は、ベークに覚書に関する態度を明確にするよう求めた。

7 / 15 金曜 ベーク、ディ・ルポら党首に会い、BHV 分割に対するいくつかの見返りが受け入れ難いとした。

この条件付けは変化の兆しと受け取られた。この日、7党はCD&Vを交渉の席に着かせることができるかも知れないと感じた。

7/19火曜 デイ・ルポ、覚書の他の部分は維持しつつ、BHVに関する新たな提案を8党に示した。この日の夜CD&Vによる新提案検討後、ベークはデイ・ルポに連絡を取った。

7/20水曜 午前、ベークとデイ・ルポ会談。その後デイ・ルポは7党党首と合議。

翌日に祝日 fête nationale を控え、国王が恒例のテレビ演説をした。国王は、その監督権を行使して、長期間連立合意に至らず内閣を組織できない政界に警告を与えた。これは専ら態度の曖昧なCD&Vに対するものと受け取られた。

午後早く、デイ・ルポはコミュニケにより、21日13時までに、組閣者デイ・ルポの提案に基づくBHV問題に関する交渉開始に同意するかどうか返事を求めた（最後通牒）。

その夜、CD&Vは期限満了前に同意した。つまり、CD&Vが組閣者によって進められている交渉にN-VA抜きの参加表明。組閣者が譲歩したからとの理由で。

→これが政変の展開の中で最大のターニング・ポイントであった。今後の交渉の枠組みが決まり、新たな方向性が示された。

デイ・ルポの辞職は国王により最終的に受け入れられず、組閣者として活動することに。

BHV分割問題への取り組みから先ず開始し、早期の合意を目指す。平行してその他の議題も扱うことに。CD&Vが受け入れがたい4点については委員会送り、つまり無期限延期に。

7/21木曜 デイ・ルポ、18時に8党会議を招集。

7/22金曜 00時45分、8党は7時間の議論の後、交渉方法について遂に

合意。デイ・ルポ国王に報告へ。国王の勧めにより、みな消耗しているので3週間の休息後、具体的交渉を行なうことに。

8月

8 /16 火曜 交渉開始。デイ・ルポ各党党首との個別会談開始。

8 /19 金曜 8党党首が集まり、今後の議論の方法および各党代表の人数と資格について決定。

8 /20 土曜 実質的交渉始まる。これ以降、連日交渉。

9月

9 / 1 木曜 ベノワ・リュットゲン (Benoit Lutgen, 1970年3月生)、cdH党首に。前任ミルケが交渉継続。

9 /14 水曜 BHV 選挙区分割の合意発表²。8党による最初の合意。

→分割反対のFDFがMRと袂を分かつことに。ここで、フラマン側が懸念するフランス語系地域主義政党が排除された。対話が更に進展へ。

9 /25 日曜 財政特別法改正関する合意成立。これが連邦から地域圏および共同体へ支給される金額を決定する。実質的増額を予定しているが、107億ユーロ分に上るより大きな租税自立も組み込まれる。

10月

10/ 5 水曜 BHV 裁判管轄の分割および二重化の合意発表。

10/ 7 金曜 オリヴィエ・ドゥルーズ (Olivier Deleuze, Ecolo) は環境政党のそれぞれが次期政権で副首相のポストに就くべきと。

10/ 8 土曜 夜、8党は、国家改革について合意に至る。合意書の読み直しなどが残される。

10/10 月曜 ヴァンサン・ヴァン・クイッケンボルヌ (Vincent Van Quickenborne, Open VLD) は、自由党が8党での連立政権交渉に反対と表明。環境政党が社会・経済問題では左翼に近い立場なので、これを排除するため。組閣者が受け入れないなら、交渉の席を立つと。

10/11 火曜 国家改革に関する合意発表。

→歴史的合意。

10/12 水曜 ベーターズのフラマン政府が国家改革に関する連邦の合意に賛意表明。

10/13 木曜 連立政権交渉は、環境政党抜きで行なわれることに。自由党の要求で。つまり伝統的政党間で。

制度改革についての合意に至ったので、遂に社会・経済問題に対処する政府樹立が視野に入ってきた。

新政権は、予算編成し、EUの基準を満たす社会・経済プログラムを作成しなければならない。予算は110億ユーロの削減が必要。

10/18 火曜 ブリュッセル地域圏首相のシャルル・ピケ（Charles Picqués, PS）が、連邦の財政健全化に協力してブリュッセルの財政再建の利益を失いたくないとした。

10/19 水曜 FDF、BHV 分割問題を巡って対立したMRから分かれた後、ブリュッセル地域圏議会で会派結成へ。

10/20 木曜 オランダ語系自由党と社会党が、社会・経済問題を巡って対立し態度を硬化。党首ドゥ・クローが、デイ・ルポに自由党が入閣しないかもと伝える。

10/27 木曜 司法と安全に関する合意

10/30 日曜 脱原発について合意

11月

11/14 月曜 5億5000万ユーロの原発国債（rente nucléaire）について合意

11/21 月曜 デイ・ルポ、最後の妥協の試みとして最終提案を提示。しかし、自由党は不十分だとして拒否。交渉の行き詰まりを確認して、国王に辞職を申し出。

フェルホフスタット元首相が、オランダ語系自由党が望んでいる譲歩のり

ストを作成し、ディ・ルポを側面支援。これにより対話再開へ。

11/25 金曜 格付会社 Standard&Poor's が、ベルギー国債の格付を AA+ から AA へ格下げ。9月末に 3.9%であった 10年物ベルギー国債の流通利回りが、欧州市場で、5.9%に上昇。金融市場でのベルギーの財政への不安高まる。

→月曜の市場が開くまでに予算案と財政構造改革に関する合意が目指された。

11/26 土曜 交渉に参加している 6 政党間で 2012 年予算案について合意 (accord budgétaire) に達した。国王は可及的速やかに組閣するようディ・ルポに指示した。

11/27 日曜 予算合意について 6 党による記者会見

11/28 月曜 庇護を求める権利と移民について合意

11/29 火曜 機会の平等、防衛、欧州・国際性政策について合意

生活水準に関する長期目標について合意

ベルギー軍の定員削減について合意

11/30 水曜 財政調整 (régulation financière) および消費者保護に関する合意

仮釈放なしの犯罪および刑務所での最低限の業務について合意

この夜、最終合意、次々と合意された全てを含む 177 頁の総合政策合意、に至る。これに基づき下院で政府の一般政策宣言 (施政方針演説) がなされることに。

12 月

12/ 3 土曜 各党の党員集会、政府合意への賛否決定のため。

12/ 5 月曜 夜、国王ディ・ルポを首相に任命。同時にその他の閣僚も。

12/ 6 火曜 15 時 ディ・ルポ内閣宣誓、成立。(PS, sp.a, CD&V, cdH, Open VLD, MR)

12/ 7 水曜 下院で政府の一般政策宣言。

12/ 8 木曜 代表質問および答弁

→金曜は、首相がEU首脳会議のため休会。

12/10 土曜 政府最終答弁に続いて、下院は 89 対 54、棄権 0、で信任。

《付 記》

事実関係については主に La Libre Belgique, Le Soir, Flanders Today, RTBF, RTL などベルギー・メディアの報道に基づき日々の動きを確認し、全体的な流れについては Delpérée (F.) , *PETIT ABÉCÉDAIRE POLITIQUE*, Éditions Les Claines, 2011. Mabille (X.) , *Nouvelle histoire politique de la Belgique*, CRISP, 2011. Delwit (P.) , *La vie politique en Belgique de 1830 à nos jours*, Editions de l'Université de Bruxelles, 2009. Uyttendaele (M.) , Feyt (A.) et De Brigode (F.) , *instantanés de la politique belge 2007-2008*, Éditions Racine, 2008. WITTE (E.) et VAN VELTHOVEN (H.) , *Les Querelles linguistiques en Belgique*, Le Cri édition, 2011. などに拠った。メモ書きを年表形式にまとめた資料なので、注は付けていない。日々生じた事実についての評価は筆者によるものである。

*1 拙稿「ベルギー首相辞任の影響－今何が起きているのか？－」福岡大学『法学論叢』53巻4号、2009年3月、を参照されたい。

2 BHV 問題について詳しくは、拙稿「BHV 選挙区分割の憲法的问题点」、立命館大学『政策科学』13巻3号、2006年3月、を参照されたい。

